



第 79 回国民体育大会・第 24 回全国障害者スポーツ大会

滋賀県開催準備委員会

第 8 回広報・県民運動専門委員会

会議資料



第 79 回国民体育大会・第 24 回全国障害者スポーツ大会マスコットキャラクター

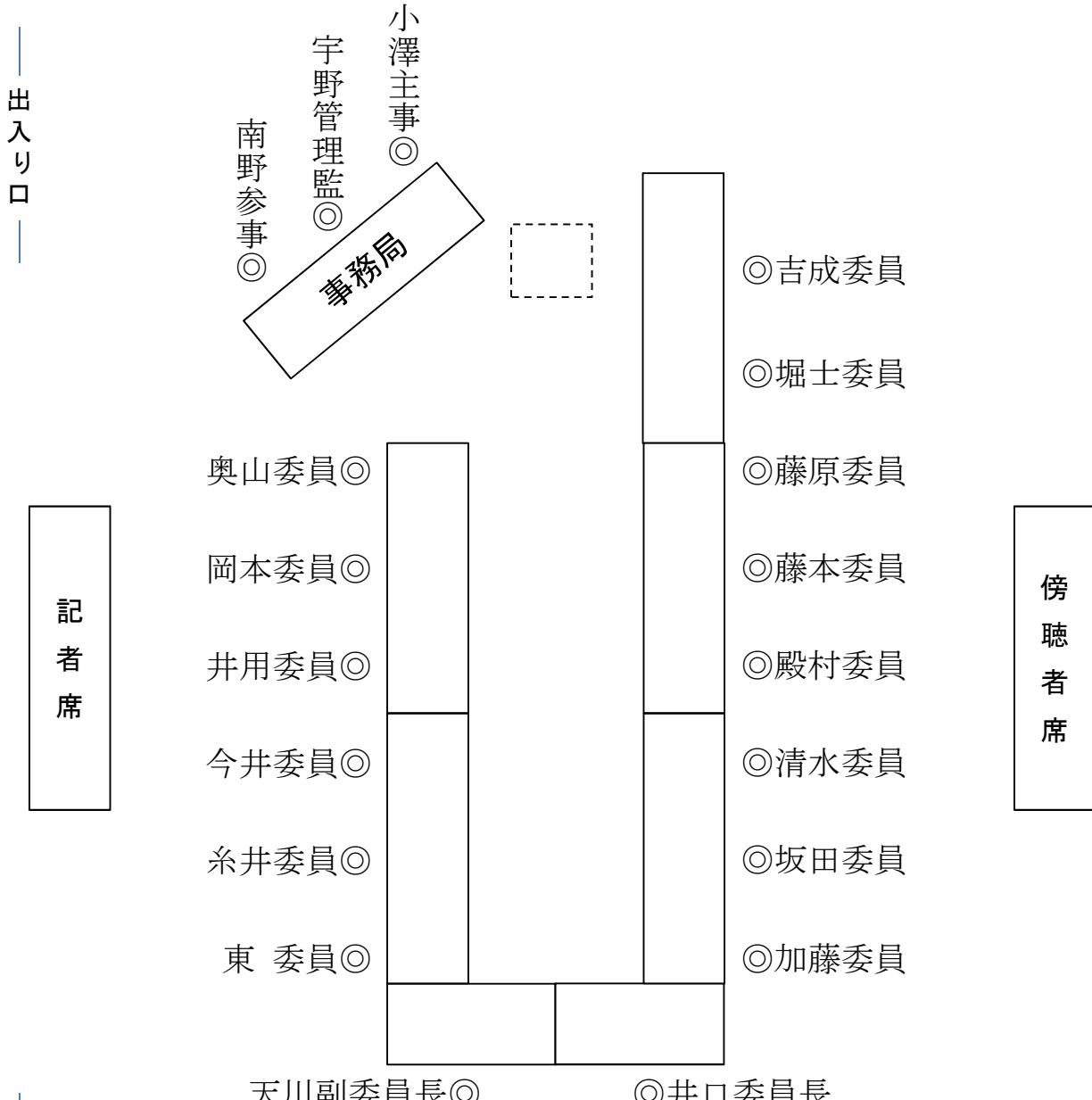
チャッフィー

キャッフィー

日 時：平成 30 年 1 月 19 日(金)10:00～12:00

場 所：滋賀県庁北新館 3 階 中会議室

配 席 図



出入口

出入口

「広報・県民運動専門委員会」委員名簿

(順不同・敬称略)

分 野	所属団体・役職名	氏 名	備 考
マスコミ	日本放送協会大津放送局 副局長	岡本 幹彦	
	びわ湖放送株式会社 放送管理局報道制作部グループリーダー	坂田 しのぶ	
	株式会社京都放送滋賀支社 支社長	堀士 昌哉	
	株式会社京都新聞社滋賀本社 編集局 編集部長代理	加藤 秀生	
	株式会社中日新聞社大津支局 支局長	中山 道雄	
スポーツ	株式会社エフエム滋賀 編成制作部 部長	糸井 孝実	今回から就任
	公益財団法人滋賀県体育協会 生涯スポーツ担当次長	井用 重喜	
	滋賀県障害者スポーツ協会 副主幹	吉成 永部	
経済・福祉・観光・社会	滋賀県商工会議所連合会 滋賀県中小企業相談所専門指導室 室次長	藤本 正勝	
	社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会 常務理事 兼 事務局長	奥山 光一	
	公益社団法人びわこビジターズビューロー 事務局長	天川 隆男	副委員長
	公益財団法人淡海文化振興財団 常務理事 兼 事務局長	東 登志也	
有識者	同志社大学政策学部 教授	井口 貢	委員長
	株式会社T.Mオフィス 代表取締役・PRプロデューサー	殿村 美樹	
	コミュニケーション・プランニング c h o c o m a k a 代表	廣瀬 香織	
市町	近江八幡市総合政策部理事 兼 秘書広報課長	今井 良治	
	豊郷町企画振興課長	清水 純一郎	
県	滋賀県総合政策部広報課長	藤原 久美子	

「広報・県民運動専門委員会」

第8回会議 次第

日 時：平成30年1月19日(金)10:00～12:00
場 所：滋賀県庁北新館3階 中会議室

1 開 会

2 開会挨拶

3 議 題

(1) 第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会
県民運動基本方針について

(2) 広報ポスターデザイン選考について

4 そ の 他

5 閉 会

第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会
県民運動基本方針について



国体・全国障害者スポーツ大会における 県民運動とは

両大会において、競技に参加する選手や監督だけでなく、県民一人ひとりが様々な形で大会に関わり、スポーツの意義や楽しさに触れ、夢や感動、連帯感を共有するとともに、全国から開催地を訪れる方々をあたたかく迎える「**県民総参加でつくる大会**」の実現を目指して展開する活動。

先催県における県民運動の取組例

◆デモンストレーションスポーツの体験



先催県における県民運動の取組例

◆街中でのスポーツ体験



先催県における県民運動の取組例

◆学校での競技体験



先催県における県民運動の取組例

◆親子スナッグゴルフ大会



先催県における県民運動の取組例

◆イメージダンスの普及



先催県における県民運動の取組例

◆クリーンアップ運動



先催県における県民運動の取組例

◆花いっぱい運動



先催県における県民運動の取組例

◆おもてなし花壇



先催県における県民運動の取組例

◆手作りのぼり旗



先催県における県民運動の取組例

◆ボランティア参加



先催県における県民運動の取組例

◆観光おもてなし認定制度



先催県における県民運動の取組例

◆マスコットリレー



先催県における県民運動の取組例

◆地元企業による特産品PR



先催県における県民運動の取組例

◆CM動画の募集



みきや———んでっす。



ナイスシュート！！



おいで Come on Come on
Come on♪



どっこらしょっ☆



みきゃんvsダークみきゃん



歓喜のみきゃん



先催県における県民運動の取組例

◆ 「おもてなし店」紹介アプリ



本県における県民運動の柱（基本目標）

◆設定の趣旨◆

「開催基本方針」や「開催基本構想(2019年策定予定)」に

掲げる目標との兼ね合いも踏まえつつ、

滋賀県ならではの県民運動を展開する上での柱を設定。

本県における県民運動の柱（基本目標）

◆柱のイメージ◆

- (1) スポーツに親しむ
- (2) スポーツ文化の定着
- (3) 次代を担う人育て
- (4) 健康・長寿の実現
- (5) 環境への配慮
- (6) おもてなし
- (7) 地域の活性化

⇒先づ県では、県民運動基本方針に掲げる基本目標は、県民運動基本計画（2019年策定予定）における具体的な取組項目の柱とされている。

方針・計画の策定に向けたスケジュール

時期	会議	内 容
2018.1.19	第8回専門委員会	県民運動基本方針について
2018.4頃	第9回専門委員会	県民運動基本法方針(案)
2018.5頃	準備委員会第6回常任委員会	県民運動基本方針 策定
2018.9頃	第10回専門委員会	県民運動基本計画(素案)
2019.3頃	第11回専門委員会	県民運動基本計画(案)
2019.5頃	準備委員会第7回常任委員会	県民運動基本計画 策定

平成25年(2013年)10月31日
第1回総会決定
平成27年(2015年)8月31日
第3回総会改正

第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会 開催基本方針

1 基本方針

滋賀県は、我が国最大の湖である琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境や、古くから交通の要衝として栄えてきた歴史を有するとともに、先人が人と人、人と自然のつながりの中で育んできた文化が今も脈々と息づいています。

この地で平成36年(2024年)に開催する第79回国民体育大会および第24回全国障害者スポーツ大会は、次代を担う人育てや、活力に満ちた真心通い合う郷土づくり、全国から滋賀を訪れる多くの人との交流の絶好の機会として、年齢、性別、障害のあるなしを問わず、県民の皆さんとの総参加により、夢や感動、連帯感を共有できる大会とすることを目指します。

大会の開催を契機として、県民の皆さんより一層身近にスポーツを楽しむことのできる環境をつくり、健康・体力の保持増進と競技力の向上を図るとともに、障害に対する理解を深め、障害のある人の社会参加を進めます。

併せて、福祉、教育、観光および経済への総合的かつ複合的な効果を通して、ふるさと滋賀の活力をさらに高め、将来にわたり持続可能な共生社会の実現につなげてまいります。

2 実施目標

(1) 滋賀をスポーツで元気にする大会

県民の皆さんのが日常的にスポーツを「する」「みる」「支える」ことのできる環境づくりに取り組むとともに、生涯にわたり心身ともに健康で活力ある生活を送ることができるよう、健康づくりへの関心を高め、行動につなげるきっかけとします。

(2) 滋賀の若者や女性が主体的に関わる大会

若者や女性の、大会に向けた準備や大会運営への主体的な参画を図るとともに、心身ともにたくましく思いやりの心を持った子どもの育ちや、女性がより一層スポーツに親しむことのできる環境づくりにつなげます。

(3) 県民総参加でつくり、「滋賀の力」を伸ばす大会

県、市町をはじめ、関係機関・団体、大学や企業との緊密な連携のもと、多様な人、多様な主体との協働を通じた創意工夫による大会準備・運営を行うとともに、滋賀の持つ「人の力」「地と知の力」を伸ばします。

(4) 滋賀の魅力を再発見し、地域の活性化やビジネスにつなげる大会

環境へのこだわりや歴史・文化・自然など多様な滋賀の魅力を県民自らが見つめなおし、全国に発信するとともに、大会準備や運営、「おもてなし」の経験をもとに、将来につながるビジネスへの展開など、地域経済の活性化を図ります。

(5) 滋賀の子が、滋賀で育ち、滋賀で活躍する大会

大会を契機として、滋賀の地で選手が育ち、その選手が指導者となって次の世代を育てるなど、滋賀のスポーツの発展を支える好循環の形成に努めるとともに、次代を担う子どもが夢を育み、実現することのできる環境づくりを目指します。

(6) 滋賀の未来に負担を残さない大会

既存施設の有効活用や、大会運営の簡素化・効率化を徹底するとともに、施設整備が必要な場合は、環境に最大限配慮し、大会終了後の持続的な活用が可能で、かつ防災等多目的に使用できる、誰もが使いやすい施設としての整備を目指します。

(7) すべての人がともに支え合う滋賀を目指す大会

障害のある人が主体的に大会に参画することや、障害の程度に関わらず日常的にスポーツに親しむ環境を整えることで自己実現の機会を拡げるとともに、障害のある人もない人もみんなでスポーツを楽しむことを通じて、人と人との絆を育み、障害への理解を深め、ともに支え合う社会を築きます。

広報・県民運動専門委員会 広報ポスター・デザイン選考について

1. 経緯

- ◆第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会の開催に向け、広く両大会の開催を周知するための広報ポスターを作成。
- ◆作成にあたっては、昨年度に引き続き、高度な専門性、斬新で完成度の高いデザインが期待できることから、県内唯一の芸術系大学である成安造形大学に依頼。

2. 依頼内容

- ◆2024年に滋賀県で開催する国体と全国障害者スポーツ大会を周知するためのポスター・デザインの制作。(A1判、デザイン説明文含む)
- ◆『大会マスコットキャラクター』を使用したデザインをテーマに、両大会に県民の皆さんの参画を呼びかけるキャッチコピーを掲載。
- ◆上記に加えて、以下のワードと問い合わせ先に関する情報を記載。

2024年 滋賀 第79回国民体育大会 第24回全国障害者スポーツ大会

3. スケジュール

時期	内容
H29.11.16	デザイン依頼、説明会
H29.12.21	学内選考、修正指示
H30.1.15	候補作品をパネル化のうえ事務局へ提出
H30.1.19	広報・県民運動専門委員会（最優秀作品1点を選考）
H30.1～2月	採用作品の微調整 → デザインのデータ納品
H30.2～3月	ポスター印刷発注 → ポスター納品 → 配付
H30.4月	掲出（H30年度中）

4. その他

- ◆最優秀作品（1点）…謝礼5万円
- ◆優秀作品（4点）…謝礼1万円
- ◆最優秀作品には大学名・氏名をポスターに表示し、県内の各種学校、施設（スポーツ、文化、レジャー等）に掲出。（印刷枚数：700枚）
- ◆候補作品（最優秀作品を含む）は県HP（国体・全国障害者スポーツ大会準備室）にて公開するとともに、県庁等でパネル展示する。

広報ポスター・デザイン選考会の流れ

最終候補作品の鑑賞

- ・作品のコンセプト文もあわせてご確認ください。



意見交換

- ・作品のデザインやコンセプトに対するご意見をください。



評価・投票

- ・各作品の寸評をご記入の上、ポスター・デザインとしてふさわしいもの
2作品を選定してください。

(得点は最上位のものを2ポイント、次点のものを1ポイントとします。)



開票

- ・開票し、最優秀作1点を決定します。
- ・同点の場合は決選投票を行います。



講評

- ・候補作品の全体的な評価等についてご意見をください。

広報ポスター・デザイン候補作品

資料2（参考）

作品番号【1】

キャッチコピー：「あふれる感動、ひろがる興奮」

<コンセプト文>

「水」「広がる楽しさ」という二つのキーワードを意識して制作した。全体的にキャラッキー、チャッキーたちを重視した構成、色調にまとめた。ポスターを構成する要素を少なくすることでよりすっきりと文字やキャラクターたちが目に止まりやすく、わかりやすくなるよう意識した。

滋賀県に広がる琵琶湖の持つイメージである「水」を、流れのある曲線や、水泡を意識した円で表現し、また、国民体育大会や全国障害者スポーツ大会を通じ、スポーツに触れることで分かち合う感動、人と繋がって何かをすることで生まれる高揚感、興奮と行ったものがあふれ、広がっていく様子を表現すべく、中心に位置するキャラッキー、チャッキーから放射状に要素が広がるように構成した。

【制作者】

メディアデザイン領域 1年 比嘉 奏太

広報ポスター デザイン 候補作品

資料2 (参考)

作品番号【2】 キャッチコピー:「わかつあつて つくる未来」

<コンセプト文>

このポスターは、《スポーツをしている時の感情を分かち合う》というコンセプトで制作しました。キャッチコピーの「わかつあつて つくる未来」は、同じ場所・同じ時に共にスポーツをすることで、喜びや感動を共有し、世代・性別を超えてより良い未来を作っていく、という意味を込めました。キャラクターを白い輪で囲んだ下部分は、赤色と青色の線で世代・性別の異なる人々が手を繋いでいるイメージでデザインし、白い輪の上部分は、琵琶湖の水が跳ね上がり、自然が生き生きとしている様子を表現しました。

【制作者】

メディアデザイン領域 1年 平井 美里

広報ポスター デザイン 候補作品

資料2 (参考)

作品番号【3】

キャッチコピー：「みんなの想いをバトンに乗せて繋ごうゴールまで」

<コンセプト文>

国体は選手・スタッフ・観客(応援)のみんなでつくりあげるものだと聞いたので、みんなが協力し合うさまをバトンレースに見立てて「バトンを繋ぐ」というコンセプトで制作しました。スタッフもバトンを持って走っているのは、頑張っているのは選手たちだけでなく国体に携わっている全ての人たちであり、スタッフもその中の1人だという意味を込めて描きました。キャッチコピーの「みんなの想いをバトンに乗せて繋ごうゴールまで」という言葉は、「みんな」とは国体に携わる全ての人たちのこと、大会で実際に走るのは選手だけど応援している観客やスタッフたちも一緒に走っているような気持ちでみんなの想いをゴールまで繋いでいってほしい、という意味が込められています。

【制作者】

イラストレーション領域 1年 藤原 佐恵

広報ポスター デザイン 候補作品

作品番号【4】

キャッチコピー：「滋賀に集合せよ！」

〈コンセプト文〉

一目で滋賀ということがわかるように、キャッチコピーを作成しました。ポスターの設置場所が滋賀県内ということで、県民の方には近場であること、県外の方には再び滋賀に訪れてもらえるよう、アピールをしています。

「集合せよ」という言葉は多くの人、多くの注目が集まってほしいという思いで使いました。また、語尾に「！」をつけ背景を白抜きにすることで、キャラクター達がこちらへ呼びかけているようにデザインしています。

イラストについては、キャッチコピーに合わせてキャラクターがぎゅっと集まった構図にしました。様々な競技を行うことを知ってもらうため、マイナーな種目も含めできるだけ多くの選手を描いています。特に障害者スポーツを観る機会は少ないので、車椅子バスケやグランドソフトボールのキャラを手前に置いて見えやすくしました。

【制作者】

メディアデザイン領域 1年 阪口 紵理香

広報ポスター デザイン 候補作品

資料2 (参考)

作品番号 【5】

キャッチコピー：「十人十色の物語 主人公はあなた」

〈コンセプト文〉

キャッフーとチャッフーを大きく見せることを重視したデザイン。白から青になる背景は水をイメージに、キャッチコピーに沿ったカラフルな装飾を施し、明るく親しみやすいデザインにしてみました。

キャッチコピーは国体、全スポ、関係者を含む参加者の中には男女問わず様々な人がいる中で、誰一人として同じではない、一人一人が主人公として参加することにより、この大会を盛り上げていくという意味が込められています。

【制作者】

総合領域 1年 松下 美祐穂

2024滋賀国体・全スポマスコットキャラクター

「チャッフィー」デビュー！

滋賀県で2024年に開催する国体・全国障害者スポーツ大会のマスコットキャラクターとして、「キャッフィー」と一緒に活躍する「チャッフィー」がデビューしました！

「チャッフィー」のデビューにあたっては、多くの方からご支援をいただきました。（下記参照）
ご協力いただいた皆さんに感謝申し上げますとともに、今後の「キャッフィー」と「チャッフィー」の活躍にどうぞご期待ください！

キャッフィーと一緒に
大会を盛り上げるよ！

チャッフィーも
よろしくね！



「キャッフィー」と「チャッフィー」って何者？
琵琶湖の固有種である「ビワコオオナマズ」をモチーフにしたキャラクターです。

NEW!

チャッフィー プロフィール

2つ下の幼なじみで、「キャッフィー」とは昔から仲の良い友達です。

泳ぐことは得意ですが、陸でのスポーツは少し苦手で「チャッフィー」に教えてもらっています。

少しどんくさい「チャッフィー」のフォローをしようと頑張りますが、たまに空回りしてしまうときもあります。

大会のマスコットキャラクターに選ばれて少し不安そうにしている「チャッフィー」の姿を見て、一緒に大会を盛り上げようと思い琵琶湖からやってきました。

愛称は「チャッフィー」と合わせて「チャッチ」。人の心をキャラッチする、という意味を込めました。

キャッフィー プロフィール

2007年4月27日生まれ。

性別は不明ですが、自分のことを「ぼく」と呼びます。

出身地は琵琶湖・竹生島付近。

性格は、どんくさいわりにチャレンジ精神が旺盛で何事にも一生懸命。子ども好きで人を楽しませることが大好きです。ただ、陸上では疲れやすく、すぐに昼寝をしてしまいます。

得意なスポーツはサッカー、エアロビクス。

見た目のわりにスピーディでトランポリンもこなしますが、頭でっかちのせいか走るとよく転びます。

好きな食べ物はエビ。得意技はキャッフィーターン。

名前は、ナマズの英名『キャットフィッシュ』から付けられました。

◆寄附金募集期間：平成29年8月1日(火)～ 9月20日(水)まで

◆寄附実績：825,872円（速報値）※9月20日現在

（クラウドファンディング、申込書による募金、募金箱募金の合計額）